

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイト等に記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	Y.O.	学年(渡航時)	3年
派遣先大学	華東師範大学		
国・地域	中国(上海)		
派遣期間	2024年9月～2025年6月		

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
高級漢語読写(一)	留学生向けに開講され、中国語の読み書きを学ぶための授業。本学2年生の留学生と授業を受けるため、難易度は少し上がるものの、学期が終了時には中国語の読み書き能力がかなり上がったように感じる。難しいと感じる場合は中級漢語読写を履修することを勧める。
高級漢語聞話(一)	留学生向けに開講され、中国語によるリスニング・スピーキングを学ぶための授業。こちらも本学2年生の留学生と授業を受けるため、難易度は少し上がる。中国人が実際に日常的に使うフレーズや成語、単語、会話文などを学びことができ、個人的に会話力の向上を実感することができた。一緒に学ぶ留学生の中国語レベルがかなり高いため、難易度が高いと感じる場合は中級漢語聞話を履修することを勧める。
中国社会概況	中国の地理的特徴や産業、宗教文化、神話などを学ぶ授業。中国に関する基本的な知識をつけるために履修した。中国人の風習、たとえば「白湯を飲むと体のあらゆる不調が改善される」といった中国人の伝統的な考え方を学んだ。日本と同じアジアであるにも関わらず、中国文化には日本と異なる点がたくさんあり、大変面白かった。
中国歴史(一)	中国の古代歴史を学ぶ授業。日本で学ぶ中国史とは異なり、中国人から見た中国史を学ぶことができた。歴史をただ暗記するのではなく、「王莽の政策がうまくいかなかった理由は何か?」、「劉邦が項羽に勝った理由は何か?」などのように分析方式で授業が行われたため、考える機会が多く設けられていた。
2 学期目	
履修科目	授業内容
当代中国経済	急速に発展している改革開放後の中国経済について学ぶ授業。中国の工業化が進むプロセスや第三産業の発展をはじめ、税制、戸籍制度などの内容を学んだ。なかでも、中国の消費税(増値税)は日本とは異なり物品によって税率が変わること、また、商品価格の表示法について、中国ではモノを販売する際に、日本のように「+税」方式で表記されないことが非常に興味深かった。将来的に中国人とビジネスを行う際や中国に派遣する場合にもかなり役立つような内容である。
中国詩詞鑑賞与誦読	中国の詩を読み解き、その美しさと朗読法を学ぶ授業。独特な価値観を持つ中国の古人(白居易、李白、王之涣など)が書いた詩を読むことで、彼らの巧妙な表現技法や中国語の美しさを学ぶことができた。
電影芸術鑑賞	批判的視点により様々な映画作品を分析する授業。多文化社会学部開講の「文化表象論」と通じる部分があり履修した。中間(800字)、期末(2000字)で2回レポートを執筆する必要がある。セメスター前半ではモニタージュ理論に基づいた、映画の構図分析を中心に行い、後半では Andrey Tarkovsky の詩意映画論に基

	づき、映画の沈黙部分の意味(一般的にはカットされる沈黙の部分がどう時間の流れを表現しているのか)を分析した。文化表象論の授業を履修したことがある、または興味がある場合、本講義を履修するとさらに理解を深めることができる。
中西文化比較	中国文化と西洋文化を比較し、どのような違いがあるのかを学ぶ授業。中国人学生と留学生合同で授業が行われる。比較する文化として、精神、言語、思想、宗教、文学、芸術などが挙げられ、中西文化の違いを講義とグループディスカッションを通して学んだ。中間課題としてグループプレゼンテーションが課せられる。
《孫子兵法》与現代商戦	三大兵書の一つである『孫子兵法』中の思想を現代の商戦へ応用し、成功する企業に求められる重要な要素を学ぶ授業。『孫子兵法』とは今から 2500 年前に書かれた軍事戦略書であり、現代の商業戦略に通じるものが多くある。講義では『孫子兵法』の思想を理解するとともに、それら思想をもとに実際にアリババや小米、蜜雪冰城などといった中国の有名企業を分析する。中間課題では「『孫子兵法』の五事七計を応用してミルクティーの店を企画経営する」というテーマの下、グループプレゼンテーションが課せられる。
中国成語文化与運用	中国語の成語とその成り立ち、文化を学ぶ授業。中国語を学ぶ上で成語は非常に重要である。四字熟語ひとつで複雑な心情や状況を説明することができたため、中国人とコミュニケーションをとる際に成語は欠かせない。本講義では、90 個の四字熟語を学習し、それぞれの意味だけでなく、その成り立ちや用法まで学ぶことができる。意味を覚えることはさほど難しくないが、それを正しく使えるようになるには多くの使用例に触れる必要があるため、中国語の学習に大変役立った。
中国歴史(二)	中国歴史(一)と同じく、中国の古代歴史を学ぶ授業。日本で学ぶ中国史とは異なり、中国人から見た中国史を学ぶことができた。歴史をただ暗記するのではなく、「王莽の政策がうまくいかなかった理由は何か?」、「劉邦が項羽に勝った理由は何か?」などのように分析方式で授業が行われたため、考える機会が多く設けられていた。

留学レポート(1,500 字以上)

この 10 ヶ月間の中国留学を経て、私は今までにないくらい大きく成長することができた。

私は 3 年後期から 10 ヶ月間、中国の上海へ留学した。上海は外国人が多く居住しているということもあり、とても住みやすい都市だった。少し都心に出ると西洋風の建物がたくさんあり、中国と西洋の文化が入り混じった風景が多く見られた。中国にいるにも関わらず西洋風景を感じることができるのはとても面白かった。

私が留学した華東師範大学(中北キャンパス)は普陀区という比較的栄えた地域に位置しており、近くには環球港(Global Harbor)という上海で有名な大きなデパートがある。また、地下鉄の最寄駅である金沙江路が近くにあるため、どこに行くにも便利だった。華東師範大学には中北キャンパスの他に闵行キャンパスがあり、中北キャンパスがある都心部から地下鉄 1 時間半とかなり遠い場所にある。どちらのキャンパスも非常に過ごしやすく、特に私が主に活動していた中北キャンパス内にはカフェ(華東師範大学出版社 24 時間閲読空間、祥麟書苑)があり、自習するのにおすすめだ。キャンパス内の移動については月 300 円程度でシェアバイク哈咯單車を利用することができる。

講義について、交換留学生は大学で開講されているすべての講義を好きなだけ履修することができるため、履修の重複がない限り、興味がある講義は進んで受講してみるという。私が所属していた国際漢語文化学院は四年制の学部留学をしている留学生向けの学部であり、それら留学生が中国語を学ぶ講義と歴史、商学といった専門科目を中国語で学ぶ講義が開講されている。私は前期は高級中国語の講義を中心に受講し、中国語力の向上に集中した。後期からは商学や歴史、経済、そして、専門分野である文化表象学に関連した講義などの専門科目を受講した。専門科目は留学生向けに設計されているので、極端に難しいということはなく、中国文化をあらゆる角度から学ぶことができる内容だ。特に文化表象学に関連して受講した「電影芸術鑑賞」ではレポート執筆を通してアンドレイ・タルコフスキーの詩的映画について学んだ。受講を通して、これまで色々な方向に向い

ていた興味がかなりまとまった。ここで得た考えを今度の映画分析に活用したい。

プレゼンテーションや課外活動なども活発に講義に取り入れられており、様々なバックグラウンドを持つ留学生を中国語で交流できる。特に上海城市文化という講義にてミャンマー、韓国、アルメニア、アメリカの留学生と行なったグループ活動が印象に残っている。活動当初、考え方の違いや話す中国語のニュアンスのズレによる衝突を経験した。今までカルチャーショックや異文化理解について沢山学んできたつもりだったが、実際には全くと言っていいほど身についてなかった。グループ活動では価値観、言語共に異なるメンバー同士で円滑に活動するために丁寧なコミュニケーションをすることを心がけた。そして、セメスターの最後にはそれぞれが持つ文化の違いについての話が尽きないほど仲良くなり、本当の意味での異文化理解をすることができた。

様々な講義を受けて課題に取り組んでいくうちに中国語での会話力が上がっただけでなく、これまで苦手としていた書く力、読む力も格段に上がった。

課外活動について、週末は一般の方が主催している日中交流会に参加した。所属している学部が留学生専門の学部であるため、日頃大学内ではなかなか中国人と交流する機会がない。そのため、私にとってはこの交流会が中国人の友人を作る唯一のチャンスだった。毎度交流会には老若男女様々な参加者が集まる。みんなとても優しく、会う中国人全員が「中国で困ったことがあったら連絡してね」と声をかけてくれた。彼らと交流していくなかで、私がかも感じたことは中国人は人と人の心の距離感が近いということである。彼らはコミュニケーションの際に思ったことをはっきりとすぐ伝えてくれる。困った時は家族のように熱心に助けてくれる。これまで日本の文化のみしか触れたことがなかった私にとって、彼らの思いやりの方法はとても新鮮で、とても嬉しかった。なにより、彼らと話しているとどんなに言葉をうまく話すことができなくても不思議と孤独感を感じなかった。10ヶ月の間、どこにいて何をしても不思議と安心感があり、一度も孤独感を感じたことはない。

交流会では本当に私の人生の一部になる出会いを沢山した。上海で会社を運営するカッコいい女性や日本で通訳をしていた人、記者になりたい大学院生、上海の日系企業で働く人、どの人も困難に負けじと自分の叶えたい夢を追い求めていた。彼らがよく口にしていた言葉で私の考え方に大きな影響を与えた言葉が「开心最重要」、「活在当下」という言葉である。「开心最重要」は自分が嬉しい、楽しい気持ちで幸せであることがなによりも大事であるという意味だ。「活在当下」は今この瞬間を生きるという意味だ。これまでの人生を振り返ると、知らず知らずのうちに私は自分の楽しいという気持ちよりも他のものを優先していたし、未来や過去を過度に気にして今その時を一生懸命過ごすことの重要性を見落としていた。彼らとの出会いは縁であり、私の中国語力を伸ばしてくれただけでなく、これから生きていくために大事なことに気づかせてくれた。

交流会では中国人の友人のみならず、上海で働く日本人とも交流することができた。社会人、特に中国で働く社会人との交流は知らないことを沢山知ることができるため、とても面白かった。

この10ヶ月の留学を通して、自分から外の世界に飛び出て挑戦すること、様々な人に自分から出逢いにいくことを心の底から楽しいと感じた。ここで得た経験を基にこれからも自分の中の世界を広げていきたい。

留学中の写真(5枚程度) ※写真のキャプションも入れること



外灘からの景色
夜になるとどこもかしこも
キラキラ光っていて、すごく綺麗。



北外灘からの景色
外灘から見ても綺麗だが、個人的には北外灘の方が
人も少なく綺麗に見えるのでおすすめ！



大学内の川、麗娃河からの景色
これは三月に撮ったもの。梅と桃の花がすごく綺麗！



大学のファッション文化祭
留学生と中国人学生がそれぞれの国の伝統衣装を着て
行ったファッションショー。日本代表として浴衣を着て、ラ
ンウェイを歩いたのがすごくいい思い出！



カエルの混ぜ麺
絶対に食べないと心に決めていたけど、
意を決して食べたら柔らかくておいしかった！



豫園